

第三回 第三者評価委員会会議録

平成25年7月16日(火)

教育委員会室 18時00分

施策の方向1 地域から信頼される学校づくり

目標1 一人ひとりの子どもに応じた指導により、確かな学力と豊かな人間性を育てます

- ・ 全体として、本来の小・中学校の中心として評価すべき事や墨田区の特色ある活動が項目立てて記述されているので報告書はこの形式で良いと思います。(小松委員)
- ・ 全体的には、実施状況、成果、課題、25年度以降の取組みも具体的に記述されているので読者も分かりやすいと思います。(尾木委員)

きめ細かい指導体制の確立 (指導室長)

- ・ 内容もそうですし書き方の並びとして丁寧に記述されているので良いと思います。(小松委員)
- ・ 成果の項目において、文末表現がそれぞれ「～できた。」と記述されているので、可能であればアンケート結果等何か根拠を示す事柄が記述されているとなお良いと思います。(佐藤委員)
- ・ 課題の項目において、「ティームティーチングから習熟度別少人数授業への移行を図る」と記述されていますが、25年度以降の取組みでは、習熟度別少人数授業もティームティーチングも行うと記述されているので、例えば、課題の項目を「ティームティーチングに加えて習熟度別少人数授業への一層の充実を図る」という記述にされた方が、25年度以降の取組みとの整合性がとれるのかと思います。(尾木委員)

国際理解教育の推進 (尾木委員)

- ・ 成果の項目において、具体的で分かりやすいだけに、授業の質が向上したことがわかる例示があるとよりわかりやすいと思います。(尾木委員)

道徳教育の推進 (指導室長)

- ・ 具体的に実施した学校数や土曜授業の実施回数が記述されているので良いと思います。(小松委員)
- ・ 25年度以降の取組みは読者が一番注目する部分だと思うので、書き方の並びは良いと思います。(小松委員)
- ・ いじめ防止法が策定され今年の秋に実施されますが、これとの対応について区内でも考えているかもしれないので、課題又は25年度以降の取組みに記述されたほうが良いと思います。(尾木委員)

目標2 地域の特色に合った魅力ある区立学校づくりを進めます

地域の教育力を生かした教育活動の推進 (指導室長)

- ・ 「保護者や地域住民をゲストティーチャーに招くなど」と記述されているが、これは全校で実施したのか。
→中学校は実施している学校と実施していない学校がありますが、小学校ではほとんどの学校で実施しています。(橋爪室長)
→全校で実施していないならば、「保護者や地域住民をゲストティーチャーに招いた学校においては」という記述にしたほうが良いと思います。区内の学校について、課題意識として意欲的な取組みを行っている学校とそうでない学校との学校差があると感じています。そのことが課題として表現されていれば良いと思います。(尾木委員)

施策の方向2 温かい家庭づくり・学び合える地域づくりへの支援

- ・ 記述の仕方の問題で、事業の実施回数や参加数等の実績について、前年度との比較は成果の項目に、単年度実績は実施状況の項目に記述するようにしたほうが良いと思います。(佐藤委員)
- ・ 成果の項目について、24年度の目標値との関係で記述されているところがありますが、読む側からすると目標値が達成された根拠をまず記述したほうが、わかりやすいと思います。(尾木委員)

目標1 温かい家庭づくり・学び合える地域づくりへの支援

教育相談 (生涯学習課長)

- ・ 目標値相談件数対して、「登録相談件数」や「終結相談件数」と異なる複数の表現で成果が記述しているので、目標値との関係がわかりにくいです。(尾木委員)
- ・ 教育相談件数の増加が成果というよりは、むしろ終結率の増加が成果だと思います。もっと言うと、相談しなかった、あるいは相談できなかった人が相談できるようになったという声が聞くことができれば良いと思います。ここにおいて成果は、終結率を増加できたことだと思います。(小松委員)

目標2 学校と地域を結ぶしくみをつくります

NPO すみだ学習ガーデンとの連携 (生涯学習課長)

- ・ 成果の項目において、「幅広く支援」というところで、講座数が増えたとありますが。これは、文化的な講座もあればパソコン講座もあって多様化したことを成果として考えていいのですか。量的な成果と質的な成果という観点で考えれば、幅広く支援というのは両方に関わるので、「多様化して質・量共に向上・改善して幅広く支援することができた」という意味合いが分かる記述にしたほうが良いと思います。(小松委員)
- ・ 課題の項目において、「講座を充実」というのは量なのか、質なのか、両方なのか具体的に記述したほうが良いと思います。(小松委員)

目標4 大学や図書館等多くの教育資源と連携し、学ぶ機会を広げます

すみだ生涯学習ネットワークの構築 (生涯学習課長)

- ・ 生涯学習行政としては、区民の中の自主的・自立的な活動を後援・奨励することが狙いだと思うので、実に多様な団体が参加されていることが記述していて良いと思います。区が後援・奨励することにより、それぞれの団体がネットワークをより強固なものにしていくことが期待されます。また、NPOや大学等、区教委がひとつの成果、活動としてなぜ取り上げるのかという意味づけを記述されるとより良いと思います。(小松委員)

教育委員の活動状況

1 教育委員会のしくみ

- ・ 教育委員さんの活動を正しく評価できるように教育委員会のしくみの「合議制の執行機関」については、もう少し詳しく書いたほうが良いと思います。

具体的な議案について5人の委員で協議をして具体的な手続きは教育長にお願いしています。いろいろな方面からの委員さんがせっかく選ばれているわけですから、合議制で行っていることが活動として見えるような書き方をしていただければ良いと思います。(小松委員)

2 教育委員の活動状況

- ・教育委員の活動状況で、学校行事等への参加や各団体との意見交換会及び施設訪問等は延回数となっているので、何人かの委員さんで分担されているのかと思います。ただ、主となる役割は、委員会審議なのかと思われます。

この主たる会議以外の周辺的な行事がかなり多くて本来の会議の部分に集中できないという声もよく聞きます。また、そういう状況だと委員になられる方も限定されてしまいます。墨田だけの課題ではないのですが、そういった部分も教育委員会の形骸化の要因としてあるのかなと思います。

周辺的な活動をもう少しスリム化して、本来の審議に集中できるような工夫があるといいのかなと思います。実際行事に参加する時も情報を吸収するということがいいのですが、そういう場合以外もあると思いますので、その辺を精査する必要もあるかと思います。

(佐藤委員)

- ・教育委員会の委員さんは、議会の議員さんとは違う形で区民のために、あるいは学校のために仕事をしているということを活動状況のところでもう少し丁寧に書いてもらってもいいかなと思います。例えば、「各団体との意見交換会及び施設訪問等」でまとめて166回と書かれてしまうと、活動の内容が見えません。私の経験でいえば、年何回かは校長会やPTAの役員さんたちと交流会があったり、それ以外の団体とも意見交換会があったりとかします。また、施設等についてももう少し詳しく、例えば学校に行くケースもあれば、生涯学習施設に行くこともあるでしょうから、すべて166回にまとめてしまうと活動が見えないと思います。

学校現場の代表である校長会、保護者の代表であるPTAとの交流、それ以外の青少年団体の代表者との交流といったように分けた方がいいと思います。それから、例えば、年1回4月に東京都教育委員会に召集されて教育委員さんが出かけられます。これは視察であり、研修でもあります。教育委員として都や区市に出かけて研修活動を行っていることは多分あるだろうと思います。これも活動状況の中に書き込むといいと思います。

(小松委員)

- ・本区ということではなく、一般的に教育委員さんの活動で最近指摘があるのは、若干、承認とか管理に関する業務が中心になっていて、学校が当面する課題について協議をし、学校への支援について、それが反映されるという面が弱いのではないかということです。

それに応える意味でも、例えば、先ほど庶務課長が話された6つの項目の「いじめ・不登校・体罰に関する問題への対応」、「学力向上3カ年計画」、「学校で生じている様々な問題の対応状況」は区内でも課題を抱えている学校がありまして、そうした課題については教育委員さんが把握をされ、合議の内容を活かして学校の支援にあたっていく。そういうことは実際にされているのだと思います。

これは、「審議された主な議案等」の定例会において、その内容は「その他「事務局の主要事業」等」の「等」の中に含まれるのかと思われます。

また、そのことに関する活動でいうと、「教育委員による学校行事等への参加」のむしろ「等」の方が教育委員さんが実際に、実情を把握されたり合議に活かされることなのかと思います。実際にそうした内容に機能されている部分については、活動状況の中に書かれるよう工夫をしていただければと思います。(尾木委員)

3 会議の開催状況

- ・会議状況のところ、公開の状況は各教育委員会で濃淡があります。墨田区では単に委員会の会議を公開するだけでなく、活動についても情報提供していますということを書いていたきたい。(小松委員)
- ・それから、教育委員会活性化に向けた平成 25 年度からの取り組み内容は書かれた方がいいと思います。(小松委員)
- ・会議の開催状況で、「審議された主な議案等」の最後に「その他「事務局の主要事業」等」が 55件となっていますが、その他の部分が一番多いというのはあまり望ましくないと思います。この55件は、もう少しばらして中身が判るようにしていただきたい。

例えば、予算について今、事務局がこのようなことを考えているとか、年度明けて予算内容のこのようなことが決まったとか情報提供されているかと思います。学校の研究発表とか周年行事とかそういうことについても、話をしていると思います。(小松委員)

- ・今気がついたのですが、定例会で審議された内容に入らないのかなあと思うのですが、(私が教育委員を務めていた時ですが) 毎月指導室から子どもの事故についての報告がありまして、学校管理内で交通事故のようなケースなのですが、その度に、子供の安全管理とか、事故防止とか、結構時間かけて議論をしました。

特に学校の管理下で起きた事故については、学校やそれぞれの教職員がどう対応したのか、その辺の徹底をしていました。区内の小中学校で児童生徒が安全で安心して暮らせる学校づくりというテーマで意見を言わせてもらいました。墨田区でも定例会で多分そのようなことが話し合われていると思いますが、それが見えない書き方になっています。

「人事について」とか「文化財について」、「行政財産の管理について」の区分けでは、区民から見て子どもの立場、保護者の立場からやっているということが見えない。

区分けの仕方を工夫していただきたい。(小松委員)

- ・教育委員会の開催状況の資料は毎回の「次第」が横引きされたものになっていると思われます。例えば、7月18日の定例会では「児童生徒に関する事故等について」が取り上げられていますし、12月5日の定例会では、「出席停止に関する事務取扱要綱について」がとりあげられています。多分このようなときに単に要綱の話だけでなく、突っ込んだ議論がされていると思います。1月23日の定例会について言うと「新体力テストの結果について」がとりあげられています。これもテストの結果の報告だけでなく墨田区における体力向上の実情について協議がされていると思います。この辺のところについて、開催状況の表現を少し工夫していただければ、突っ込んだ議論がされているのだということが明らかになり、先ほどのような非難が当たらないんだということが判るような活動状況が示されることになります。(尾木委員)

全体を通して

- ・区民(当事者)から見て教育委員会はこの仕事をしているのだということが分かりやすい、興味を持つような書き方に心掛けるべきだと思います。

基本的には、年々評価書の記載は良くなっているとは思いますが、もっと読んでもらうことを意識した記述してほしい。(小松委員)

- ・もう少し欲を言うと、横の行がきれいにそろっていると判りやすい。成果の黒点を番号に変え、25年度以降の取り組みも対応する番号で横に揃えとか、成果と課題を行を切り離すとかの工夫があると見やすいと思います。（佐藤委員）
- ・ただ今の佐藤委員の発言に関連して、例えば、「すみだ生涯学習ネットワークの構築」の成果の欄の「具体的な活動」が何を指しているのか読み取りにくい。こうした読み手に理解しづらい表現がないかももう一度、全体を見直していただき出来るだけわかりやすい表記を工夫していただければと思います。（尾木委員）